10　家庭

学校番号	1008

令和３年度　家庭科

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	２単位	年次	２年後期
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〇自分を取り巻く手芸品について関心をもち、積極的に取り組みましょう

・身近な手芸品の制作を通して、手芸の効用、目的、などについて作品発表会・演習等を通して考え、理解を深め知識を身に付けます。友だちの考えを知り、多様な考え方を学び、自分の考えをもちましょう。

・クロスステッチ、刺繍、刺し子、パッチワークなどを利用し作品を制作することにより、技術の習得と創造的に制作し、活用できるようになりましょう。

2　学習の到達目標

手芸の種類、特徴および変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に制作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	各手芸の技法を用いた作品の制作に関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	各手芸の技法を用いた作品の制作において生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	各手芸の技法に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	各手芸の種類、特徴、変遷、技法に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述、製作計画、実習記録表 レポート、発表 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 観察記録表 レポート、発表 定期考査、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 作計画、実習記録表 観察記録表 レポート、発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	手芸の種類と特徴・手芸の変遷	○身近な手芸品についてその種類や特徴を知る。 ○手芸の各技法の仕組みを知る。	○ ○	○ ○	○	○ ○	a:身近な手芸について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:それぞれの手芸の特徴と課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:各手芸の技法の特徴について理解しそれぞれの技法を身につけている。 d:現在の服飾手芸の課題について理解し、自分の問題として捉えるための知識を身に付けている。	授業観察 ワークシート レポート
	被服材料としての手芸の技法・手芸品の制作	＜手芸の技法・作品制作＞ ・クロスステッチ ・刺繍 ・刺し子 ・フェルトマスコット ・パッチワーク ・自由作品など	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:各手芸の妓法に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:それぞれの手芸を生活の充実向上を図るために用いることができ考え表現している。 c:作品制作を通して各手芸の技法の基本的な技術を身に付けている。 d:自分の生活向上のため作品制作を行宇ことのできる知識を身に付けている。	授業観察 ワークシート 実習記録表 作品 発表

※ 表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※ ＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。